デルフィニウムF1品種の育成および新作型の開発





宮崎県総合農業試験場花き部

中村　広

研究の背景

- 1984年に新規品目として導入　西南暖地において先駆けて産地化を目指す
- いざ導入してみると形質の不均一さ、生育の不揃い等、問題点が多く、切り花の営利生産に適さない。　生態的なバラツキも大きかった。





同一品種内でのバラツキ

問題解決に向けて育種に着手

育種手法の変遷と品種育成

- 育種目標：形質及び生育が揃う品種の育成

- 1987年
  - ○**自殖による優良系統選抜** ×
    発芽率低下等の近交弱勢等
  - ○**集団選抜による優良系統育成** ×
    形質が揃いにくく、ねらった改善が得られない
  - ○**組織培養による品種化** ×
    増殖率が低く、定植用としての組織培養苗の利用は困難
- 1992年
  - ○**近交系同士の交配による品種育成を開始（F_1品種育成）**
    親個体を組織培養で維持増殖し、交配親として利用する技術を開発
- 1997年
  - ○**初めての宮崎総農試育成F_1品種「シリウス」を発表**
    デルフィニウムにおいて公的研究機関で初めてのF_1品種を育成
- 現在
  - **継続して品種育成に取り組み、14品種を育成、普及**

育成したF1品種の開花状況

- 外的形質が均一で開花もよく揃う品種の育成に成功



生態育種への取組

- 涼温、短日条件下でも1番花、2番花がロゼット化しない品種を育成

表　10月定植作型における１番花のロゼット株発生率

品　種	ロゼット株率（%）
シリウス（育成品種）	0
サマースカイズ（市販品種）	13.8
ギネバー（市販品種）	5.0

8月6日播種、定植10月16日

初めて育成した品種「シリウス」は１番花はロゼットしないが、2番花がロゼットする！

表　デルフィニウム‘レグルス’の側芽の抽だい特性

品　種	１番花の平均開花日	2番花の抽だい株率（%）
レグルス（育成品種）	11月　4日	95.0
スカイブルーインプ（市販）	11月　8日	35.0
ブルーバード（市販）	11月19日	20.0

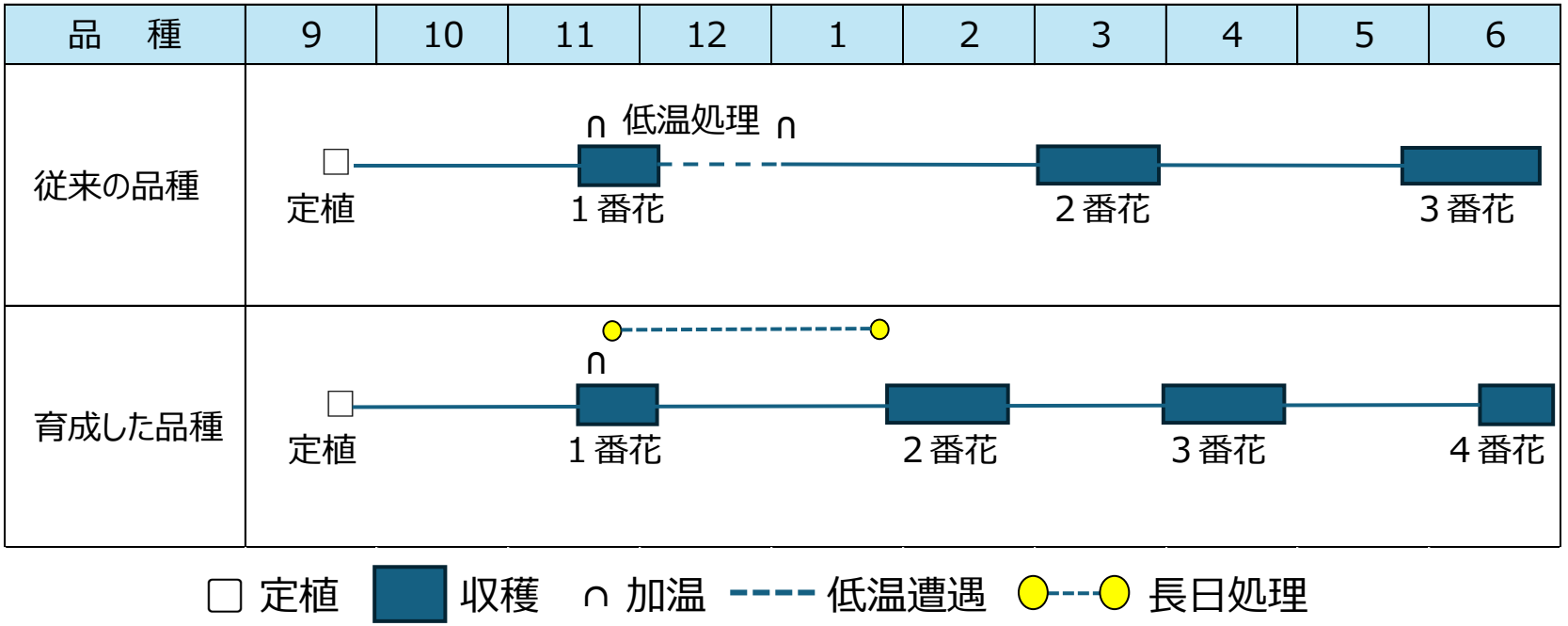
11月19日から最低夜温13℃で管理。自然日長



２番花の抽だいの様子

育成品種に適した新たな作型の開発

- 品種特性を生かせる栽培技術を開発し、新たな作型を普及



- 低ロゼット性品種＋新たな作型で20%程度の増収が実現。
- 作型が既に確立していたことから、後年、種苗会社から低ロゼット性の品種が市販された際に、スムーズな品種導入につながった。

育成品種と新作型はほぼ全戸に普及

- 現場レベルでも開花の斉一性や作型の再現性や有効性が実証され、本県の育成品種による基本的な栽培体系として定着した。







- 品種はあくまでも『モノ』でそれを生かす技術があって初めて価値ある成果につながります。
- 一方で品種は技術の力を超えることがあります。(品種に勝る技術なし)
- 宮崎県におけるデルフィニウムの取組は品種と技術が相まって現地に定着し、国内有数の産地化が実現したものです。
- 品種育成には多くの担当者や関係者が関わり、カタチとなっています。
- デルフィニウムの品種育成と新作型開発に関わっていただいた皆様に深く感謝申し上げます。